

# 令和3年度 安来市地域包括支援センター事業報告書

I.	総合相談支援業務	P1
II.	権利擁護業務	P4
III.	包括的・継続的ケアマネジメント業務	P6
	■個別地域ケア会議（自立支援型ケアマネジメント会議）	P6
	■校区別地域ケア会議	P7
	■介護支援専門員に対する支援	P9
IV.	介護予防ケアマネジメント業務	P10
V.	短期集中予防事業「通所型サービスC」	P11
VI.	一般介護予防事業「住民運営通いの場 こけないからだ体操」	P13
VII.	認知症施策推進事業	P15
VIII.	組織運営	P19
IX.	各種実態調査	P24

安来市地域包括支援センター  
(高齢者まるごと相談センター)



# I. 総合相談支援業務

## 1. 相談件数・内訳 (令和3年3月末)

### (1) 包括支援センターの総合相談支援事業対応件数 (令和2年と3年の4月～3月の同期数値)

年 度	令和2年度	令和3年度	対前年比
実 人 数	1,004	990	<b>99%</b>
延べ相談数	5,827	6,636	<b>114%</b>

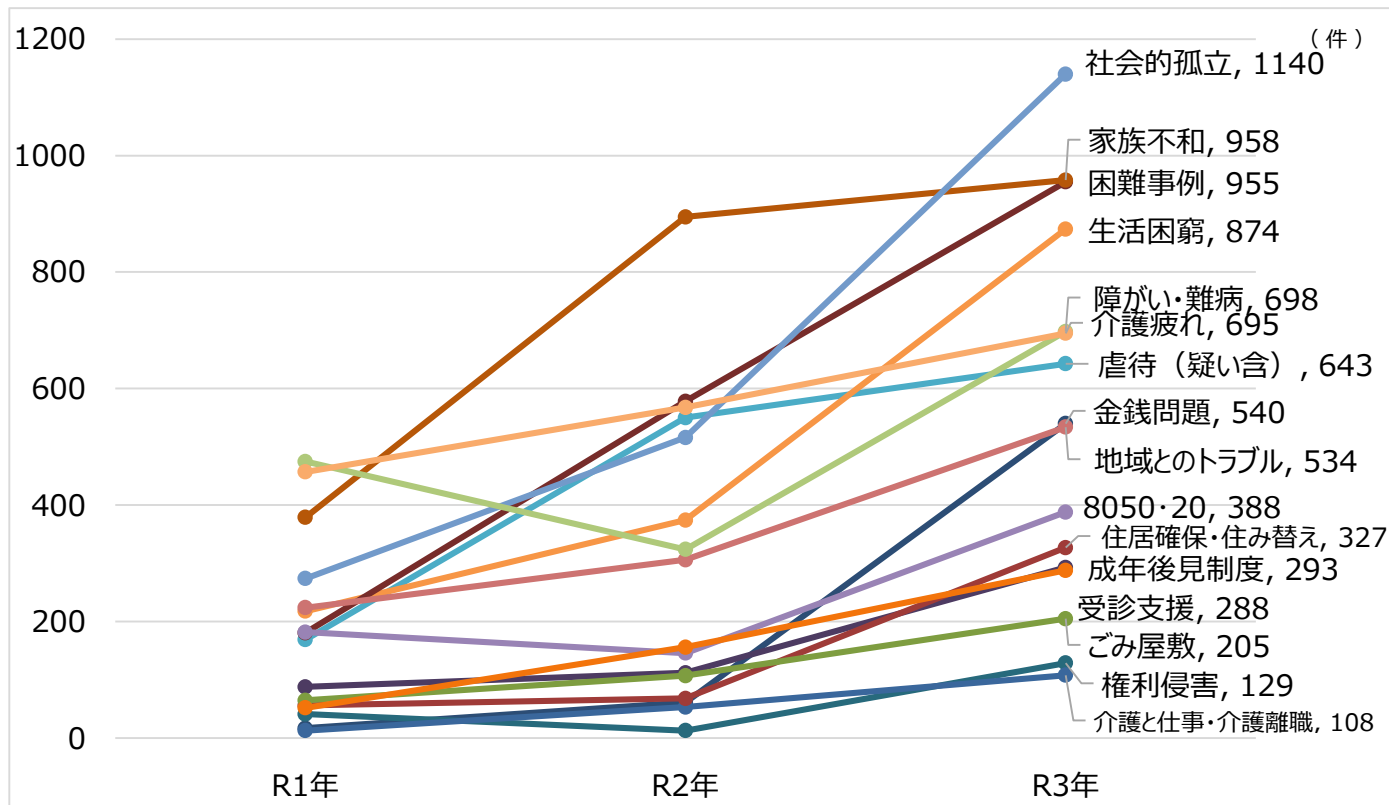
内 容 \ 年 度 (延べ人数)	令和2年度	令和3年度	対前年度比
①認知症(疑い含)	2,071	2,672	129%
②状況(実態)把握	1,868	2,624	140%
③介保制度(申請・サービス含)	2,669	3,131	117%
④福祉用具・住宅改修	404	534	132%
⑤虐待(疑い含)	550	643	117%
⑥生活困窮	374	874	<b>234%</b>
⑦金銭問題(滞納・未納・債務含)	61	540	<b>885%</b>
⑧困難事例	578	955	165%
⑨ケアマネ支援	672	763	114%
⑩成年後見制度	112	293	<b>262%</b>
⑪権利侵害(金銭搾取・消費者被害)	13	129	<b>992%</b>
⑫家族不和	895	958	107%
⑬社会的孤立(引きこもり含)	516	1,140	<b>221%</b>
⑭地域とのトラブル	306	534	175%
⑮障がい・難病	324	698	215%
⑯8050・20(ダブルケア含)	146	388	<b>266%</b>
⑰介護疲れ	568	695	122%
⑱介護と仕事・介護離職	53	108	<b>204%</b>
⑲住居確保・住み替え	68	327	<b>481%</b>
⑳ごみ屋敷	107	205	192%
㉑施設入所支援	331	466	141%
㉒入退院支援	508	719	142%
㉓受診支援(同行含)	156	288	185%
㉔ギャンブル・薬物(依存症含)	31	6	19%
㉕アルコール(依存症含)	118	159	135%
㉖移動・交通(免許返納含)	142	110	77%
㉗就労支援	6	47	<b>783%</b>
㉘苦情関連	27	42	156%
㉙講師・講演依頼	24	22	92%
㉚連絡事項	197	198	101%
㉛その他	564	426	76%

### (2) 複数の課題が重なるケースへの対応

2種以上の課題を抱える人は**実人数 481人**、対応回数は**延べ 4,877人**。1人あたりが抱える課題の平均は、**3.88項目**であった。10個の課題と11個の課題をかかえるケースがそれぞれ1ケースずつあった。

課題の数	延べ人数
3項目	1,355
4項目	624
5項目以上	1,469

(3) 困難・深刻な課題を抱えるケースへの対応（複数選択あり・延べ数）



2. 時間外・休日相談内訳及び対応

時間外相談件数 721 件、延べ対応時間は 172.6 時間。			
内 訳	件数	対応時間 (h)	
電話での相談	521	76.7	
連絡・伝言	116	14.7	
訪問等の緊急対応	54	60.1	
時間外の来所対応	30	21.2	

3. 在宅介護支援センターの相談件数

市内3ヶ所（ケアプランやすぎ・しらすぎ苑・支援センターひろせ）の在宅介護支援センターに総合相談窓口を委託設置した。年間で実人数 247 人、延べ 292 件の対応をおこなった。

内 容	延べ人数
認知症(疑い含)	43
状況(実態)把握	5
介保制度(申請・サービス含)	252
福祉用具・住宅改修	56
虐待(疑い含)	1
生活困窮	1
困難事例	2
ケアマネ支援	5
家族不和	1
障がい・難病	1
介護疲れ	4
施設入所支援	5
入退院支援	72
その他	10

#### 4. 安来市地域包括支援センターにおける個別地域ケア会議の開催（困難事例、虐待ケース等）

No.	実施日	参加者数	内 容
1	4/30	6名	【困難事例】対象者の生活の場、金銭管理、サービス導入の検討。
2	5/24	6名	【困難事例】生活困窮・障害を抱えるケースについて、施設入所に至るまでの生活支援等の検討。
3	5/24	7名	【困難・虐待事例】経済的虐待。金銭管理と施設入所の検討。
4	5/28	10名	【困難事例】精神障害のある家族から高齢者への暴言、迷惑行為について、支援方法検討。
5	6/8	8名	【困難・虐待事例】介護放棄が疑われるケースについて、対象者の生活の場について検討。
6	6/15	5名	【困難事例】受診拒否、住居、利用料金滞納、8050等の複合的な課題を抱えるケースへの支援策について検討。
7	6/24	5名	【困難事例】成年後見制度、生活の場について検討。
8	7/2	5名	【困難事例】成年後見制度、生活の場について検討。
9	7/6	5名	【困難事例】対象者の生活の場、家賃や公共料金の滞納があるケースへの支援策について検討。
10	7/14	5名	【困難事例】障害・多額の滞納と債務・家族不和・社会的孤立・8050など複合的な課題を抱えるケースへの支援策について検討。
11	7/16	10名	【困難事例】権利侵害を受けているとみられる知的障害のある対象者について支援策の検討。
12	7/16	7名	【虐待事例】ネグレクトが疑われるケースについて情報共有と支援策の検討。
13	8/4	6名	【困難事例】対象者（認知症）のサービス利用、配偶者（障害）の施設入所、子どもの就労について情報共有と支援策の検討。
14	8/10	3名	【困難事例】対象者の住み替え・受診支援・金銭管理について支援策検討。
15	9/28	5名	【困難事例】公共料金と利用料金滞納のあるケースについて情報共有と支援策の検討。
16	10/7	7名	【困難・虐待事例】被虐待高齢者と養護者の世帯分離（施設入所）、養護者支援について検討。
17	11/10	7名	【困難事例】サービス利用に向けた清掃支援、金銭管理、親族との連絡手段について検討。
18	12/2	7名	【困難・虐待事例】深刻な課題を複数抱えるケースについて弁護士を交え、支援策について検討。
19	12/6	7名	【困難事例】生活の場、金銭管理、障害のある子どもへの支援策等について、対象者の成年後見人を交えて情報共有、検討。
20	12/16	6名	【困難事例】対象者のサービス導入、引きこもりの子どもへの支援策について検討。
21	12/17	5名	【困難事例】地域住民とのトラブルのある認知症高齢者への今後の支援策について検討。
22	1/13	5名	【困難事例】生活困窮、ネグレクトが疑われるケースについて、支援策の検討。
23	1/25	6名	【困難事例】深刻な課題を複数抱えるケースについて、おもに滞納について対応方法の検討。
24	2/3	5名	【困難事例】認知症の親と障害のある子がいる家庭について、金銭管理・後見制度について検討。
25	2/25	9名	【困難事例】深刻な課題を複数抱えるケースについて、施設入所と金銭管理について検討。
26	3/2	5名	【困難事例】社会的孤立状態にある認知症の高齢者について、今後の支援策検討。
27	3/31	4名	【困難事例】莫大な滞納がある家庭について、今後の支援策検討。

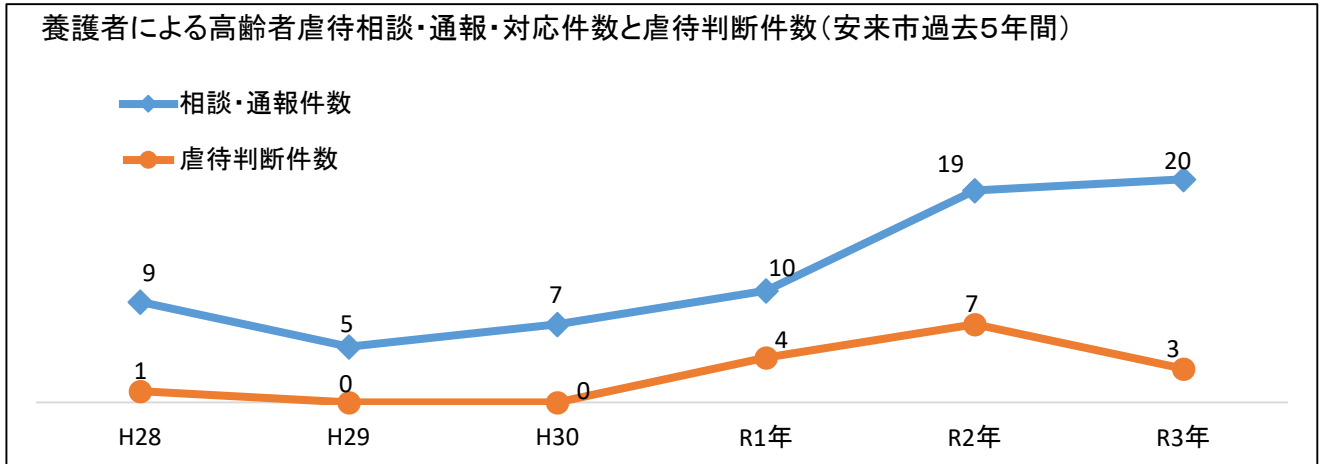
## II. 権利擁護業務

### 1. 高齢者虐待

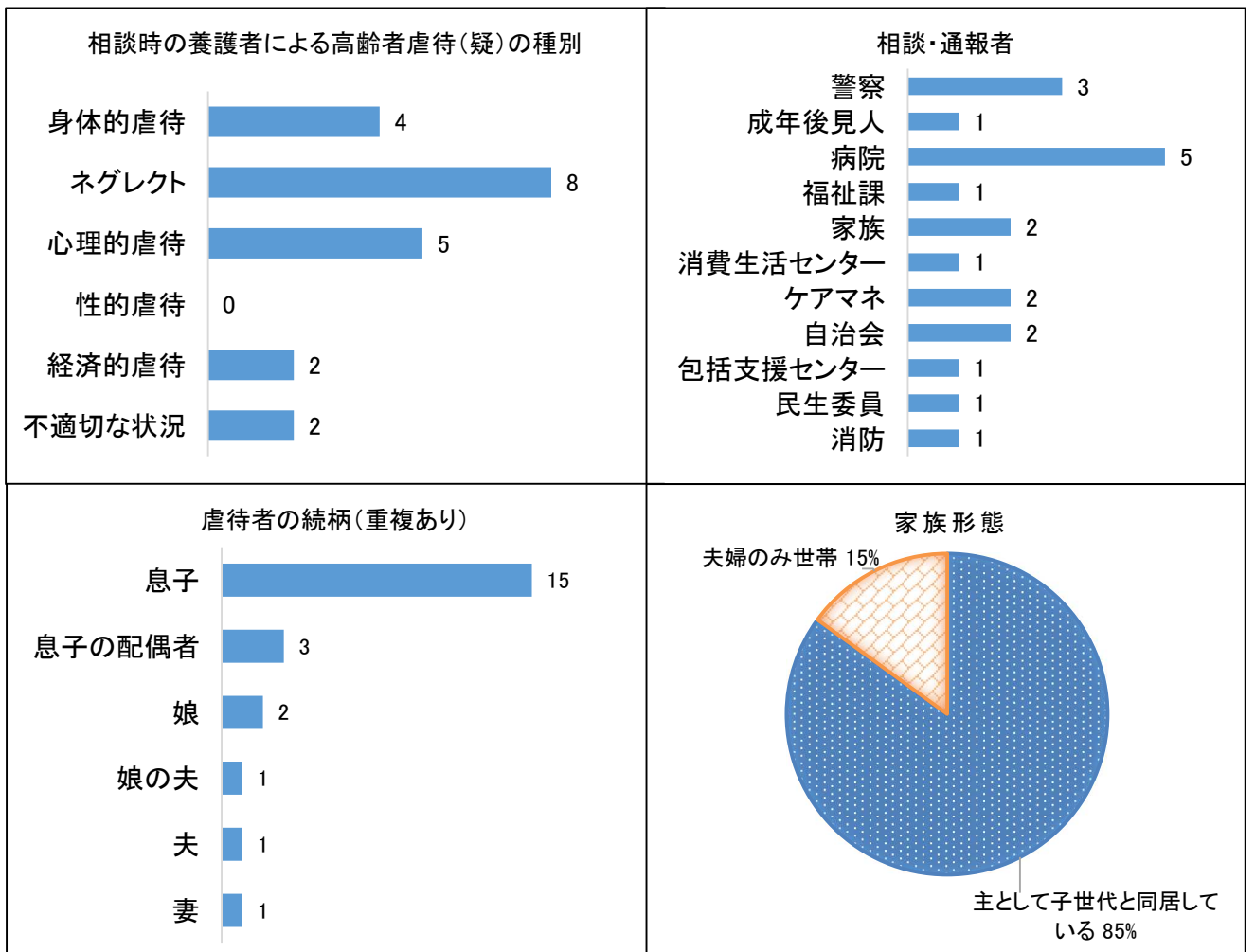
(1) 高齢者虐待に関する新規相談は20件、継続相談対応ケース5ケース。市とコアメンバー会議を開催し、うち新規3ケースが虐待判断された。緊急保護が必要なケース、受診が必要なケース等事実確認を行いながら、関係機関（福祉課、警察、医療機関、基幹相談支援センター）と連携し、適宜、虐待対応を行っている。

虐待要因としては、障がい、家族不和、認知症、生活困窮、うつ、ひきこもり、介護に関する知識不足等である。個別地域ケア会議等の開催により必要な支援につながり、虐待判断に至らないケースも多かった。広報活動として包括のホームページ等で普及啓発を行っている。

(2) 養護者による虐待 虐待と認められた件数：3件（令和2年度は7件）



#### ■新規相談の内訳 (20件)



## 2. 成年後見制度の利用促進

### <支援者のための成年後見制度活用講座>

日 時：令和3年10月20日（水）13：30～16：00

場 所：安来中央交流センター「音楽室」

講 義：「成年後見度の概要について」

松江後見センター代表 弁護士 鳥居 竜一 氏

報 告：「成年後見制度の活用・支援事例について」

活用事例：安来市地域包括支援センター

支援事例：安来市権利擁護センター

報 告：「安来市における成年後見制度利用支援事業の現状と体制整備の考え方について」

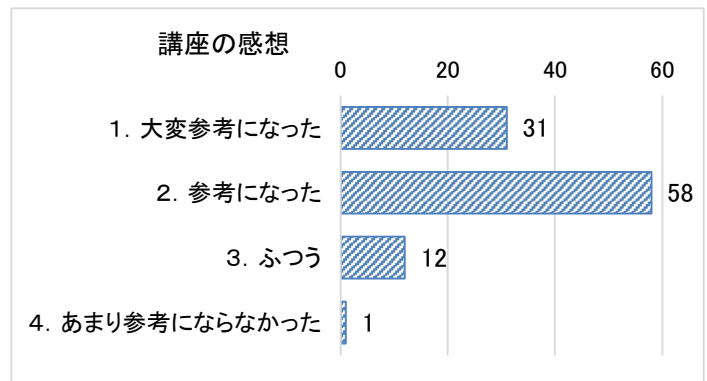
安来市健康福祉部福祉課 係長 高木 英治 氏

全体協議：「成年後見制度利用支援に関するアンケート調査報告」、質疑応答・意見交換

参加人数：25名

#### 【ご意見・ご要望】

- ・分かりやすく説明していただいて良かった。
- ・詳しく内容を知ることができて良かった。
- ・事例を聞く機会がないので参考になった。
- ・安来市の現状や考え方について知ることができ大変参考になった。
- ・アンケートを踏まえた制度への考え方について知識を得ることができた。



## 3. 成年後見相談件数：6件

手続き支援：成年後見制度申立て2件

連 携 先：社会福祉協議会、医療機関、家庭裁判所、福祉課、松江成年後見センター、権利擁護センター

相談者	相談内容
高齢者夫婦（80代）	自分たちと障害のある子も含め今後について
親 族（80代）	施設入所の兄弟について
本 人（70代）	金銭管理、財産について
本 人（80代）	認知症により金銭管理ができなくなった
本 人（50代）	お金の管理を希望
親 族（80代）	施設入所のきょうだいについて

## 4. 他機関との連携：8件

他機関主催会議への参加（5ケース）

主催者	人 数	内 容
基幹相談支援センター	7名	就労を含めた今後の生活について検討
介護医療院	8名	情報共有と今後の方針について検討
基幹相談支援センター	5名	情報共有と今後の方針について検討
福祉課	5名	生活保護と入所の日程について検討
病院	8名	情報共有と今後の方針について検討

## 5. 消費者被害の防止

相談件数：2件（金銭搾取）

連携先：民生委員、福祉課、社会福祉協議会、警察、安来市消費生活センター、医療機関、金融機関、福祉サービス事業所、居宅介護支援事業所

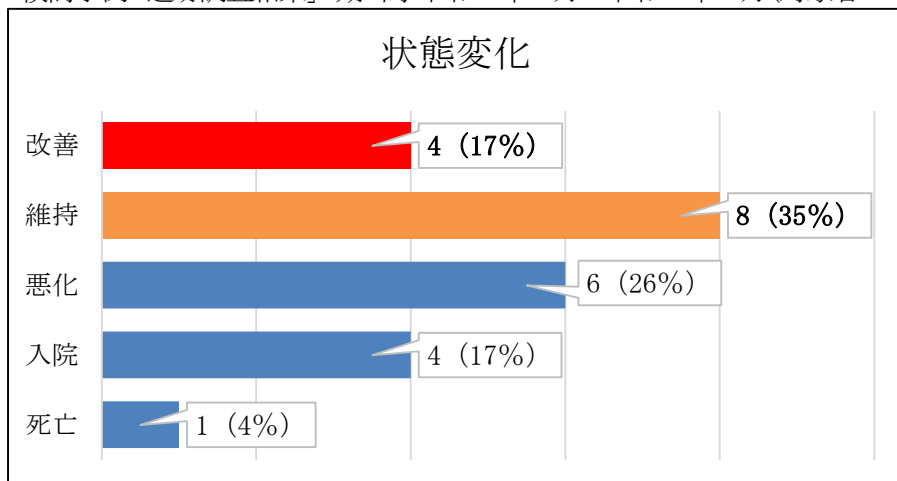
### Ⅲ. 包括的・継続的ケアマネジメント業務

#### 1. 個別地域ケア会議（自立支援型ケアマネジメント会議）

- 会 場：広瀬社会福祉センター（視聴覚室+オンライン）※オンラインは公開講演会と最終回のみ
- 目 的：自立支援・重度化防止に資するケアマネジメント実践力向上と自立支援介護の展開を目指す。
- アドバイザー：介護保険課・管理栄養士・歯科衛生士・主任介護支援専門員・リハビリ専門職・薬剤師・臨床心理士

No.	実施日	対象者	人数	会議内容等
第1回 評価報告	5/19(水)	事例提供者・アドバイザー 事業所・介護保険課・包括職員	15名	R2年度／事例検討3ケース 全ケースが状態維持・改善の結果
第2回 事例検討	6/16(水)	事例提供者・アドバイザー 事業所・介護保険課・包括職員	17名	①独居高齢者のIADL向上を目指すケース ②自立歩行を目指す障がい高齢者ケース
第3回 評価報告	7/21(水)	評価報告者・アドバイザー 事業所・介護保険課・包括職員	15名	R2年度／事例検討3ケース うち2ケースが状態維持・改善の結果
第4回 事例検討	8/18(水)	事例提供者・アドバイザー 事業所・介護保険課・包括職員	19名	①90代独居高齢者が在宅継続を目指すケース ②独居生活の継続を目指す認知症ケース
第5回 評価報告	9/15(水)	評価報告者・アドバイザー 事業所・介護保険課・包括職員	16名	R2年度／事例検討3ケース うち2ケースが状態維持・改善の結果
第6回 事例検討	10/20(水)	事例提供者・アドバイザー 事業所・介護保険課・包括職員	17名	①頸椎損傷後、介護者の負担減を目指すケース ②役割の再獲得を目指すケース
第7回 オンライン 講演会	11/12(金)	事例提供者・アドバイザー 居宅・サービス事業所(通所・ 訪問)・介護保険課・包括職員	40名	(1)事例検討1ケース (2)活動紹介「通所型サービスC」 (3)オンライン講演「地域ケア会議・通所型サー ビスC・住民運営通いの場の連動について」 講師:(株)ライフリー代表取締役 佐藤 孝臣 氏
第8回 事例検討	12/15(水)	事例提供者・アドバイザー 事業所・介護保険課・包括職員	17名	①美容院への自力外出を目指すケース ②同窓会への参加を目指すケース
第9回 事例検討	1/19(水)	事例提供者・アドバイザー 事業所・介護保険課・包括職員	15名	①独居生活を継続したいケース ②障がい高齢者の在宅継続を望むケース
第10回 事例検討	3/16(水) オンライン開催	事例提供者・アドバイザー 事業所・介護保険課・包括職員	来場 5名	①②独居生活を継続したいケース ※コロナ感染拡大のため初のオンライン開催
主な意見・感想				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CM視点で捉えるアセスメント量には限界がある。多職種からのアドバイスで自立支援に向けて深堀できた(ケアマネ)</li> <li>・できている事の応用を話し合う事で確実な成果が得られると考える。行動変容に繋がる助言が必要(アドバイザー)</li> <li>・本人や家族の希望は聞き手が変わる事で更に引き出せる可能性がある。自立支援の視点で関わって行く(事業所)</li> </ul>				
《今後の課題》	①LIFEとの連動(居宅プランへの活用) ②成果指標・見える化 ③状態改善後の受け皿の拡充			

「検討事例 追跡調査結果」 期 間:令和2年8月～令和3年9月(対象者23名)



<会場の様子>





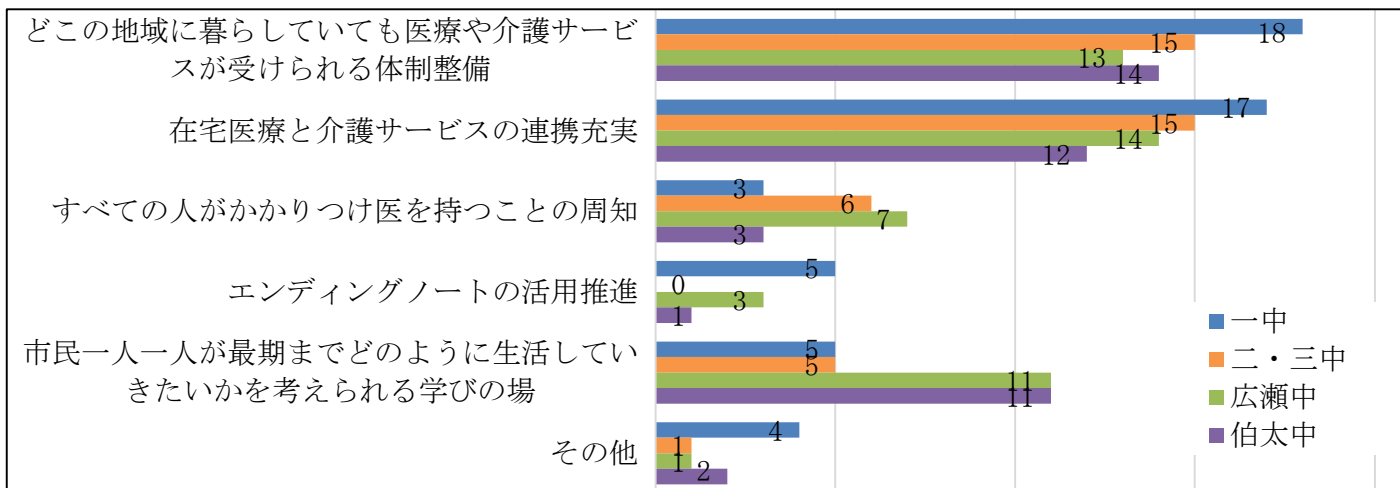
## 2. 校区別地域ケア会議

中学校区ごとに「在宅医療・介護連携」をテーマに、各校区内の居宅介護支援事業所等から出された校区課題をもとに、多職種(多機関)において地域課題を共有し、解決に向けた協議ならびに意見集約を行った。

校区	実施日	会場	参加者	テーマに基づく意見集約等
一中校区	9月16日(木) 13:30~15:00	安来中央交流センター	27名	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市街地(住宅密集地)ならではの移動・受診支援ニーズに対し新たな社会資源の開発</li> <li>●在宅医療・介護連携の現状や課題について情報共有と検討会の場づくり</li> </ul>
二・三中校区	10月15日(金) 13:30~15:00	広瀬社会福祉センター	25名	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)医療依存度の高い利用者について</li> <li>●在宅医療・介護連携の現状や課題について情報共有と検討会の場づくり</li> <li>(2)受診支援について</li> <li>●生活支援体制整備事業の充実により、外出支援の仕組みづくりに取り組む</li> <li>●ワクチン接種に伴うタクシーチケットの利用統計から地域の実態把握</li> <li>(3)社会資源について</li> <li>移動・受診支援ニーズに対し新たな社会資源開発・施策形成に向けた体制づくり</li> </ul>
広瀬中校区	11月8日(月) 13:30~15:00	広瀬社会福祉センター	26名	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)フォーマルサービス</li> <li>●安来市独自の加算・補助金(人件費・移動費助成)の創設・インセンティブにより南部地域のへのサービス拡充を図る</li> <li>(2)インフォーマルサービス</li> <li>●医療・介護の人材確保に向け「医・薬・看護奨学金制度」の充実と柔軟運用、情報発信</li> <li>●介護職員初任者研修の実施。</li> <li>●学習指導要領の改訂に伴う中学生への福祉教育の推進による将来の担い手確保に向けた取組み</li> </ul>
伯太中校区	12月8日(水) 13:30~15:00	いきいきの郷はくた集会室	23名	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)フォーマルサービス</li> <li>●安来市独自の加算・補助金(人件費・移動費助成)の創設・インセンティブにより南部地域のへのサービス拡充を図る</li> <li>(2)インフォーマルサービス</li> <li>●赤屋地区以外の生活支援体制整備事業の展開・拡充に向けた取組み</li> <li>●公共交通機関、総合事業(訪問型サービスD)など伯太地区の実情に応じた施策の検討</li> <li>●ボランティアセンターの機能強化、生活支援協議体の充実により、赤屋地区以外の地区での住民と学び合える機会をつくり「協議体」の立ち上げ支援を行う。</li> </ul>

## 校区別地域ケア会議アンケート結果（抜粋）

Q. 「本人の望む場所で最期まで生活するための在宅医療・介護連携」について、どのようなことが必要と考えられますか？  
 (特に必要と思われる3つを選んでください)



Q. 今回の会議を通じて、「医療と介護の連携」についての課題・ご意見・ご要望等について自由に記入ください。

- 地域医療連携推進法人、社会福祉連携推進法人など、オール安来の仕組みづくり
- 事業所の垣根を越えて「在宅支援チーム」を構成し広瀬支部・伯太支部等を創れば、課題解決できるのでは
- 山間部の訪問看護、訪問診療については、安来市立病院が今年から取り組みを始めたが、現状では需要に十分答えられていない様を感じる。限られた人材、財源を効率良く活用する方法について行政含め検討していく必要がある。
- 安来地区と山間部では、使えるサービスに大きな差が生じています。同じ保険料を支払っているのにサービスは使えないという法の下での不平等の問題があると思います。また、山間部への訪問サービス不足は、原油価格高騰する中で訪問事業所へ大きな負担があり、ますますサービス不足が進むのではないかと危惧します。
- 病院受診までの交通手段困難、受診時の内容の把握困難な方(独居・認知症・身障者)について、ケアマネが付き添っている現状を見かける。

<会場の様子>



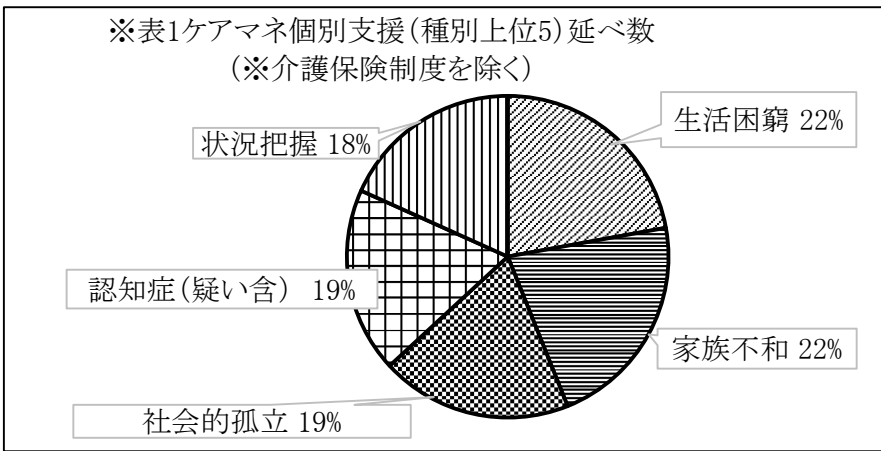
### 3. 安来市地域ケア推進会議

市内における新型コロナウイルス感染拡大影響のため、関係機関との協議の結果、開催を中止とした。

#### 4. 介護支援専門員に対する支援

##### (1) 個別支援

- ・困難ケースに対するケアマネへの個別支援（763件）表1参照
- ・ケアマネから包括への相談シートによる個別支援（1件）
- ・「社会資源情報誌」の更新・提供（市内居宅介護支援事業所）1回/年



昨年度は上位が「状況把握」「家族不和」「認知症」であったのに対し、今年度は、**社会的孤立・生活困窮・家族不和の増加が顕著**である。

その他、「**住居確保**」「**8050・ダブルケア**」「**介護疲れ**」「**成年後見制度**」等が延べ100件を超えた。

##### (2) 集団支援

No.	研修名等	実施日	対象者	参加者	研修内容等
1	(第1回)安来市主任介護支援専門員連絡会	6/15	市内主任CM 介護保険課	23名	(1)行政説明「安来市における監査指導の考え方」 安来市役所 介護保険課 (2)グループワーク ①民生委員との関わり ②社会資源情報誌について
2	(第2回)安来市主任介護支援専門員連絡会	12/14	市内主任CM 民生委員 介護保険課 福祉課	32名	(1)行政説明「個人情報と情報共有について」 安来市役所 福祉課 (2)「在宅生活を支援するうえでの現状と課題」
3	安来市介護支援専門員研修会（ハイブリッド型研修）	3/30	介護保険課 居宅・小規模CM	集合（9名） オンライン（11名）	(1)基調講演（オンライン） 「自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントの展開～AI・ICT・LIFEの活用と自立支援介護の先進事例等について～」 講師:ポスト・ヒューマン・ジャパン株式会社 代表取締役 谷本 正徳 氏 (2)報告・提案 (3)意見交換 「令和4年度 個別地域ケア会議（自立支援型ケアマネジメント会議）運営マニュアル案について」

#### 5. 介護給付費適正化事業等

No.	業務内容	実施日	事業所数	実施数	備考
1	委託介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントのケアプランチェック	毎月	11事業所	629	ケアマネジメント委託先の業務管理・指導・助言
2	要介護認定有効期間の半数越え短期入所サービス利用に係るケアプラン点検等	4月	1事業所	1	給付適正化の観点から、短期入所サービスの利用が認定有効期間の半数を超えているケースについて、居宅サービス計画の点検・助言

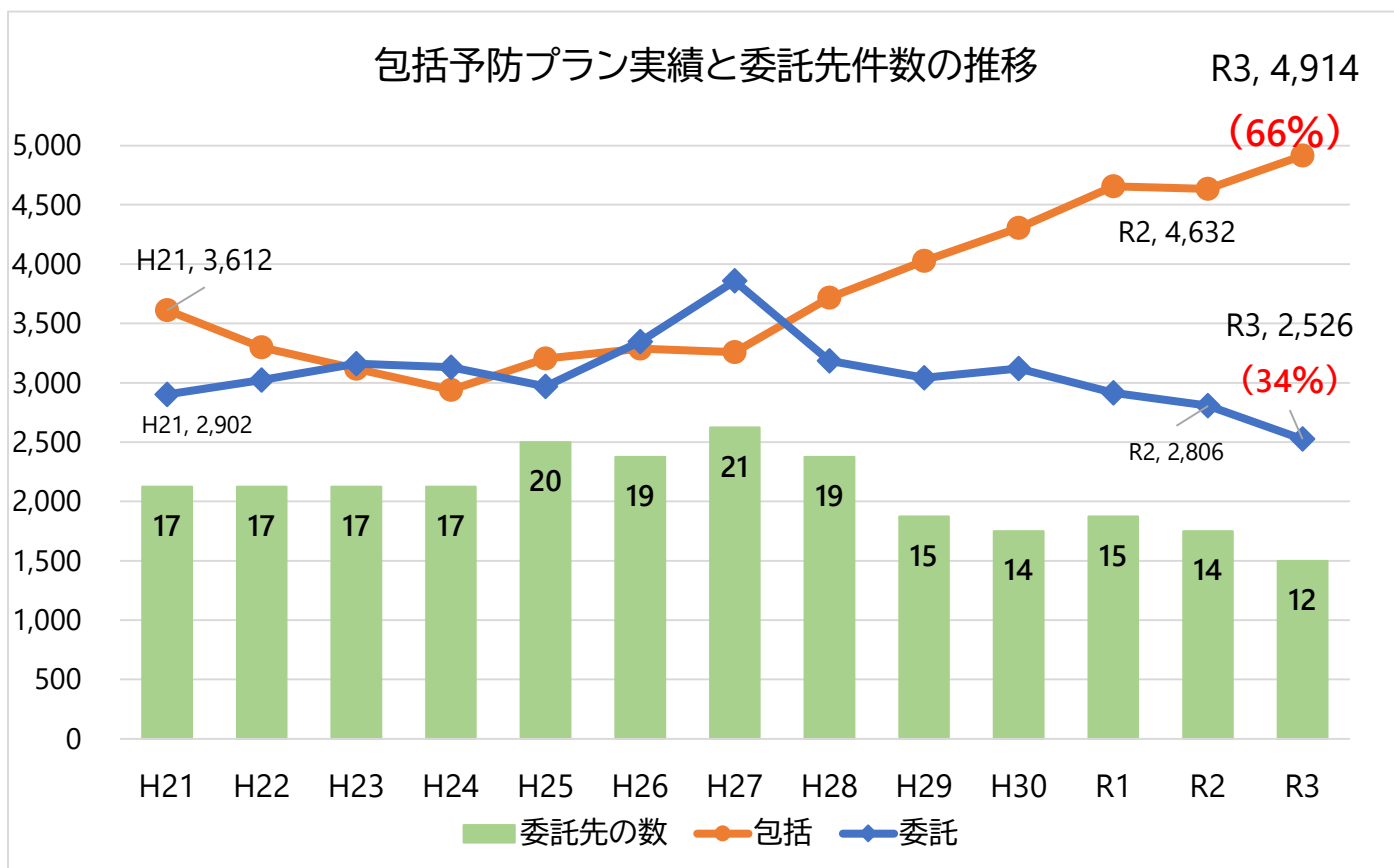
#### IV. 介護予防ケアマネジメント業務

予防給付ケアマネジメント実績				
要介護度	支援1	支援2	事業対象者	合計
包括支援センター	2,900	2,006	8	4,914
委託分(12ヵ所)	1,118	1,408	0	2,526
合計	4,018	3,414	8	7,440

分類	新規		継続		事業対象者	計			合計
	介護予防	総合事業	介護予防	総合事業		介護予防	総合事業	事業対象者	
包括支援センター	87	51	3,326	1,442	8	3,413	1,493	8	4,914
委託分(12ヵ所)	35	21	1,858	612	0	1,893	633	0	2,526
合計	122	72	5,184	2,054	8	5,306	2,126	8	7,440
	194		7,238						

#### ○委託先一覧

1	ケアプランやすぎ	7	ケアマネジメントくるみ
2	しらさぎ苑在宅介護支援センター	8	いきいきの郷はくた
3	JAしまねやすぎ居宅介護支援事業所	9	広瀬介護サポートセンター
4	在宅介護支援センターひろせ	10	ともらいふ
5	エプロンの会	11	ケアプラン孫の手
6	安来市医師会介護計画センター	12	津田居宅介護支援センター



## 新V. 短期集中予防支援モデル事業 「通所型サービスC」

理学療法士・言語聴覚士が筋力・持久力・バランス維持能力等の評価を行いながら、「運動機能」「栄養状態」「口腔機能」「心身機能」の改善を目的とし、短期間（3カ月間）で集中的にフレイル・介護予防サービスのモデル事業を実施した。

### 1. 実施方法

会 場：安来市介護予防拠点施設「ふれあいプラザ」  
時 間：10:00～12:00  
人 数：各クール10名  
送 迎：夢ランドしらさぎ振興事業団より、利用者の送迎実施

### 2. 対象者

令和3年度は安来市内「事業対象者」のうち、口腔機能向上支援事業、リハビリテーション専門職派遣事業、運動機能向上支援事業非利用者を対象とした。

### 3. 実施地域

	期間	備考
第1クール（広瀬地域）	令和3年 7月～令和3年10月	終了
第2クール（安来地域）	令和3年10月～令和4年 3月	新型コロナウイルス感染症拡大のため2月1日より中止、希望者のみ3月9日より再開し、3月29日終了。
第3クール（伯太地域）	令和3年12月～中止	新型コロナウイルス感染症拡大のため1月28日より中止、希望者は来年度へ移行。

### 4. プログラム内容

包括支援センター職員による「集団体操」を行った後、理学療法士による身体機能個別指導、言語聴覚士による口腔・認知機能個別指導を実施。管理栄養士・歯科衛生士による「栄養・口腔講座」を開催した。

サービス終了後、希望者には夢ランドしらさぎ振興事業団より食事・温泉サービスを安価にて提供。

（一日のスケジュール）

- 8:50 - 送迎開始
- 9:50 - 到着・受付・健康チェック
- 10:00 - サービス開始
  - ①集団体操（こけないからだ体操）
  - ②理学療法士・言語聴覚士による個別指導
- ※適宜水分補給
- 12:00 - サービス終了⇒希望者は食事・入浴利用

### 5. ケアマネジメントの考え方

ケアマネジメントの類型は「ケアマネジメントC」を採用。包括支援センター三職種がプランを作成。

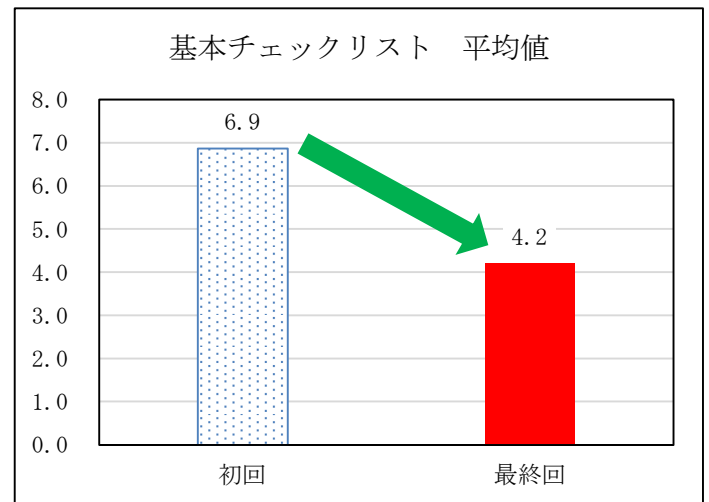
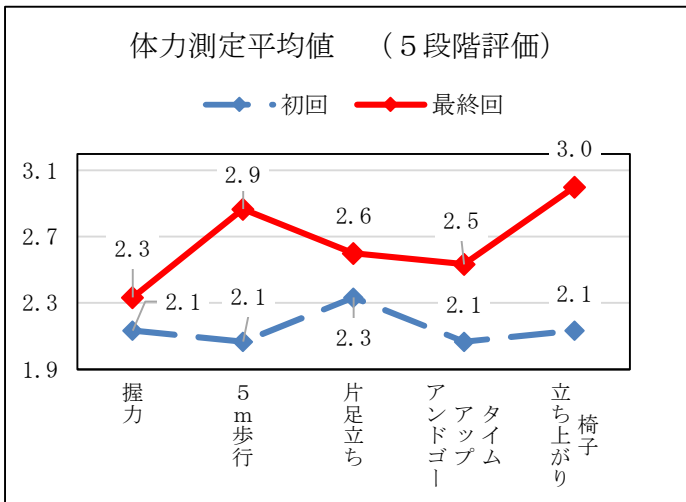
### 6. 新型コロナウイルス感染症対策

- (1) 送迎車乗車前に検温を実施。
- (2) 実施会場の入場前に検温を実施。
- (3) 会場の出入りの際にはアルコール消毒液を用いた手指消毒を実施。
- (4) 体操に使用した物品はアルコール入りウェットティッシュを用い、消毒を実施。
- (5) 30分間に1回、窓やドアの開放やサーキュレーターの使用等、10分間の換気を実施。

## 7. 効果測定

第一、第二クールについてはサービス初回と最終回に「身体機能」「生活機能」「口腔機能」「認知機能」に関する効果測定を実施した。

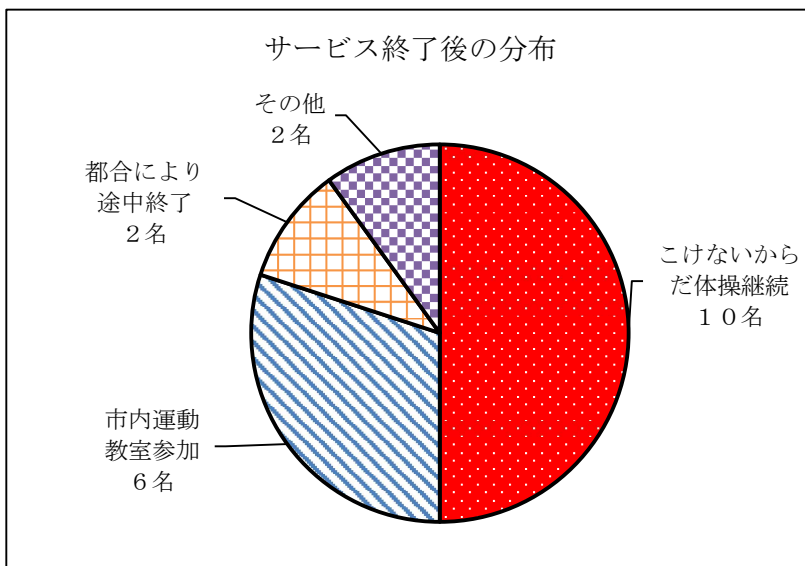
### (1) 体力測定



体力測定では、全ての項目において数値が向上する結果となった。

「基本チェックリスト」では、合計点数が低いほど「フレイル」が予防できていることを表しており、初回と最終回で平均点を比較すると、2.7点の減少がみられた。その他、口腔機能や認知機能についても「維持・改善」という効果が明らかになった。

## 8. サービス終了後の運動継続について



第一、第二クール（広瀬・安来地域）終了後、どのように介護予防を継続されているか調査したところ、団体の立ち上げや既存の団体への参加等20名中10名の方が身近な地域で「こけないからだ体操」を継続されていることが明らかとなった。

## VI. 一般介護予防事業「住民運営通いの場／こけないからだ体操」

### 1. 実施地域

	開始年度	校区	地区名	会場	参加者
新規	令和3年度	一中	十神地区	安来中央交流センター	14名
		三中	赤江町	赤江交流センター	18名
		三中	荒島町大西町	大西町集会所	7名
		三中	荒島町西中町	西中町集会所	8名
		広瀬中	本町	広瀬中央交流センター	14名
		伯太中	伯太町安田	中の上集会所	9名
		全市	ふれあいプラザ	ふれあいプラザ	14名
継続	令和2年度	一中	南城谷（2団体）	南城谷公会堂	18名
		三中	飯梨町	開公会堂	10名
		広瀬中	中の丁	広瀬社会福祉センター	16名
	令和元年度	一中	島田町	島田交流センター	11名
		伯太中	日次	日次老人集会所	5名
	平成30年度	広瀬中	町帳	町帳集会所	9名
合計				14団体	153名

### 2. 専門職（アドバイザー）

- (1) 理学療法士（安来市立病院・安来第一病院・医師会診療所）
- (2) 管理栄養士（いきいき健康課・安来市栄養士会）
- (3) 歯科衛生士（安来市歯科衛生士会）
- (4) 保健師（介護保険課）

### 3. 新規実施地区スケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容	初回体力測定 ・ 基本チェックリスト			栄養講座 ・ 口腔講座			半年後体力測定 ・ 基本チェックリスト		1月末～3月中旬 延期		
	包括支援センター職員による 短期集中支援			住民の主体的な運営 (包括支援センターより、定期的なフォローアップ)							

安来市内での新型コロナウイルス新規感染者の増加を受け、令和4年1月末より全団体へ活動中止の連絡を行った。その後、参加者の健康二次被害を予防するため3月中旬、各団体の自己判断により活動再開の検討をしていただくこととなった。

## 4. 開催方法

### (1) 支援期間

- ①新規地区については3カ月間、担当職員が毎回参加し短期集中支援を行った。
- ②4カ月目以降は住民の主体的な運営に移行。定期的なフォローアップを行った。

### (2) 取組内容

- ①準備体操
- ②歌を歌いながら行う6種類の筋力体操
- ③整理体操
- ④管理栄養士・歯科衛生士による「栄養・口腔講座」を実施。(各地区1回ずつ)

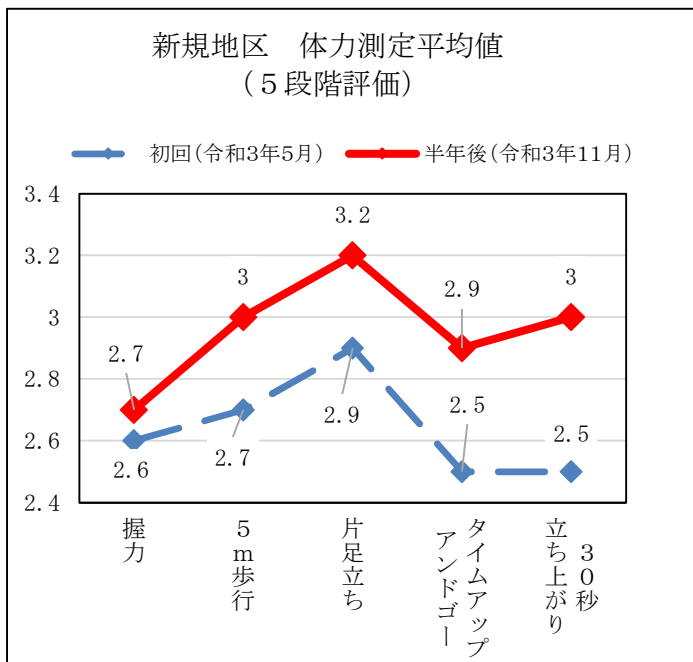
### (3) 新型コロナウイルス感染症対策

- ①実施会場の入場前に検温を実施。
- ②会場の出入り際にはアルコール消毒液を用いた手指消毒を実施。
- ③体操に使用した物品はアルコール入りウェットティッシュを用い、消毒を実施。
- ④30分間に1回、窓やドアの開放、サーキュレーターの使用等、10分間の換気を実施。

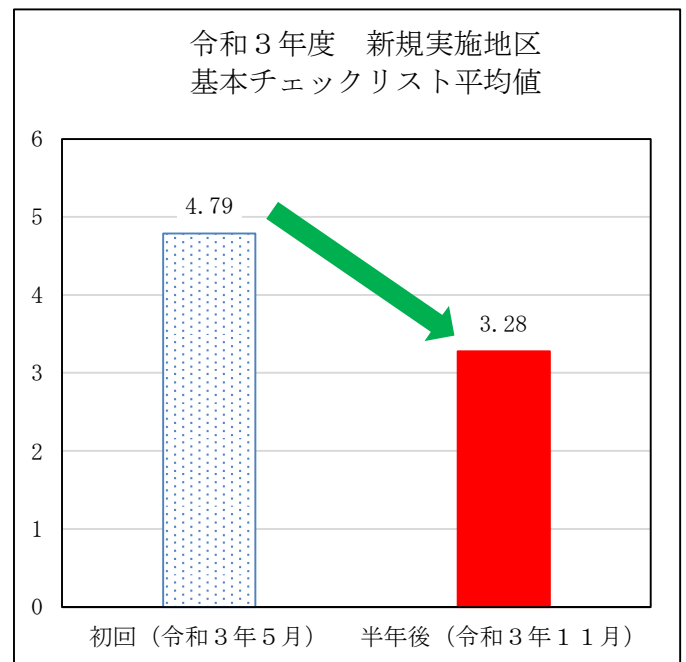
## 5. 効果測定

令和3年度新規地区については、事業開始時と半年後に体力測定と基本チェックリストを実施。運動機能と生活機能の両面から事業の効果検証を行った。

### (1) 体力測定



### (2) 基本チェックリスト



※「体力測定」では、測定した各項目の値を「鳥取県介護予防市町村支援委員会」が作成した5段階の尺度に当てはめ、評価している。

※「基本チェックリスト」はICTを活用し、集計・分析を行った。合計点数が8点以上で「フレイルの疑いあり」、4点以上で「プレフレイル」と判定される。

### (3) 測定評価

「体力測定」では、全ての項目において数値が向上するという結果がみられた。「基本チェックリスト」では新規地区での合計平均点が減少している。合計点が4点以上の場合、「プレフレイル状態」であるといわれている。半年間で合計平均点が4点を下回っており、身体面・生活面の両面から、改善結果がみられた。

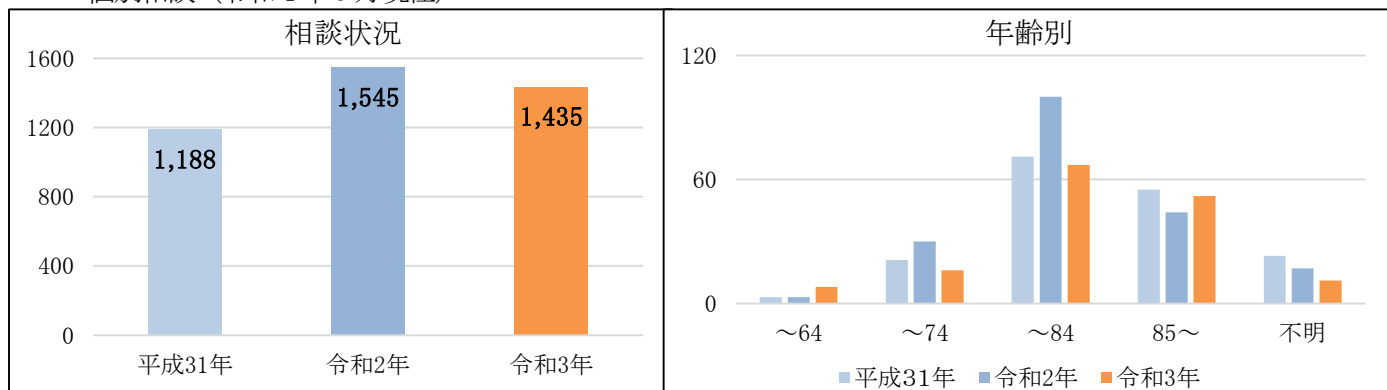


## VII. 認知症施策推進事業

### 1. 認知症の早期発見 早期支援

#### (1) 相談体制の強化

個別相談（令和4年3月現在）



個別相談の延数は令和2年度に比べ、やや減少しているが、1件当たりの対応回数は令和2年度8回/人に対し、10回/人となっており、複数回の対応を必要とするケースが増えている。このうち、継続しての支援が必要なケースは、必要に応じて「認知症初期集中支援チーム」との認知症地域支援推進員が対応している。

#### (2) ネットワーク機能の強化

認知症初期集中支援チームの実施

チーム員会議開催数 6回（6月18日、10月18日、11月5日、1月17日、2月25日、3月10日）

支援対象者 85件（前年度49件） 延べ支援回数 996回

延べ訪問回数 505回 電話回数 460回 来所回数 31回

### 2. 認知症高齢者及び家族を支援する体制の確立

#### (1) 在宅生活支援の体制づくり

##### 新：①オレンジカフェの開設

令和3年5月13日より毎月第2木曜日「ふれあいプラザ」において開催。当事者も企画の段階から参加。当初3名の参加だったが、令和4年1月時点で、実人数16名（当事者11名、家族4名、本人の友人1名）延べ87名の参加があった。

##### 新：②本人交流会の実施

令和4年5月21日より隔月第3金曜日でふれあいプラザにて開催。当事者同士が集まり、日ごろの思いや悩みなどを話し合う。実人数9名、延べ24人の参加があった。（5回開催）

##### ③山陰どまんなかプロジェクトへの参加（山陰両県 本人ミーティング）

令和3年11月29日、令和4年3月31日

当事者4名と鳥取県西部地区の認知症当事者が安来市 清水寺、大山町にて本人ミーティングを実施。継続して山陰両県で交流していくことを当事者同士で約束される。

※オレンジカフェ、本人交流会は令和4年2月より新型コロナウイルス蔓延防止の観点から中止とした。



## (2) 家族介護者への支援

### 認知症家族のつどい

「安来中央交流センター」から「ふれあいプラザ」に会場を変更し毎月第3月曜日に実施。延べ25名の参加があった。(令和4年2月は中止)

奇数月は、認知症の人と家族の会の方に来ていただき、具体的なアドバイスを受ける機会を設けている。認知症地域支援推進員の個別訪問やケアマネジャーや当センターの働きかけで、参加につながったケースもあった。

## 3. 基盤整備

### (1) 認知症サポーター養成講座 開催回数 3回 延べ受講者人数 34人

開催日	団体名	人数
8月16日	ひろせ塾(小学生4年～6年対象)	8名
9月14日	生活支援ボランティア養成講座	20名
9月25日	荒島婦人会	10名
	計	38名

(令和2年開催回数 1回 29名)

小学生を対象に認知症サポーター養成講座を開催。「自分が手助けをして、何かできることが増えたりして、喜んでもらえる嬉しい(中略)「認知症のことについてよくわかった」などの感想が聞かれた。

### (2) 認知症出前講座

開催日	団体名	人数
9月21日	栄町2ミニサロン	5名

### (3) 「もの忘れトレーニングプログラム(ものトレ)」実施による認知機能への効果検証

令和元年度より鳥取大学と共同研究により、こけないからだ体操実施後、もの忘れトレーニングを毎週行うことにより効果検証を実施。今年度より新規2地区、非対象群として新規2地区を新たに検証することとした。「研究対象群」「非対象群」に明らかかな有意差は認められない結果となったが、令和2年度に「認知機能の低下(疑)」の方が、今年度は認知機能正常範囲に保たれている結果もあり、経年的な個別変化の検証も行っていくことも検討していく。

	研修対象群	非対象群
地区名	日次女性部	石原ミニサロン
	飯梨町はつらつ教室	井尻ミニデイ
	中ノ丁有志の会	(新) とかみサロン
	(新) ふれあいプラザ	

## 4. その他

### (1) 実践報告

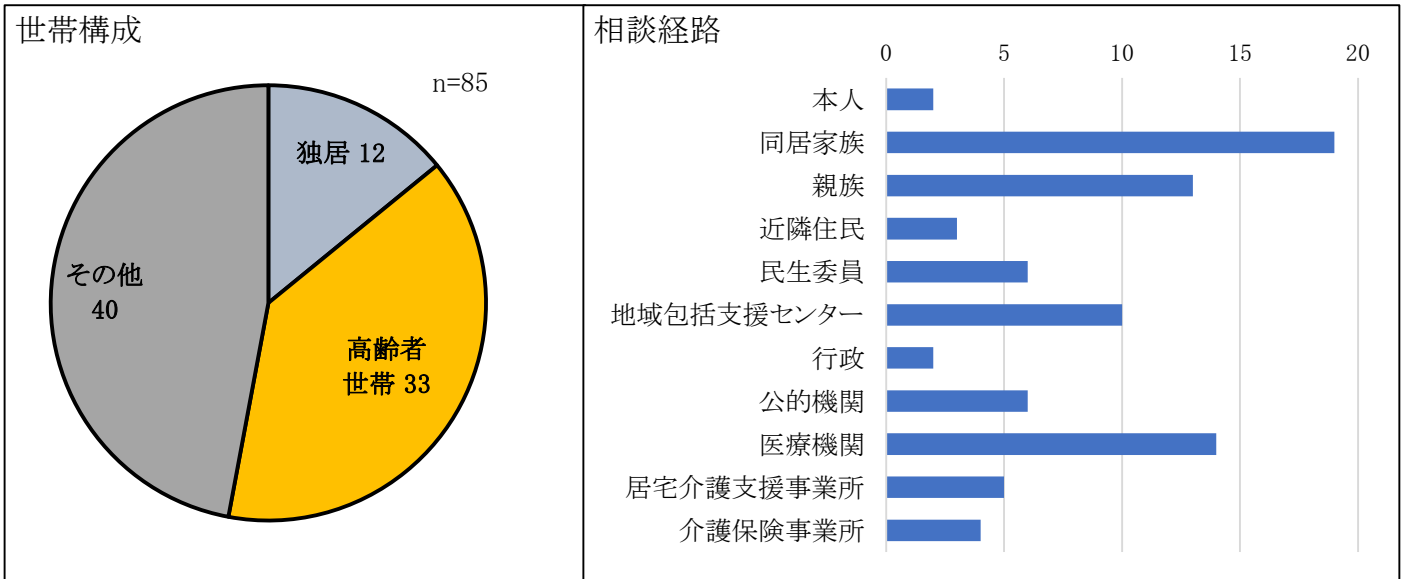
安来市の本人を中心とした認知症への取り組みは県内でも注目されており、令和3年11月19日に開催の「令和3年度認知症セミナー」(主催: 島根県、中国四国厚生局、四国厚生支局)において事例発表を行った。

### (2) 新型コロナ感染拡大の影響による各種行事の中止

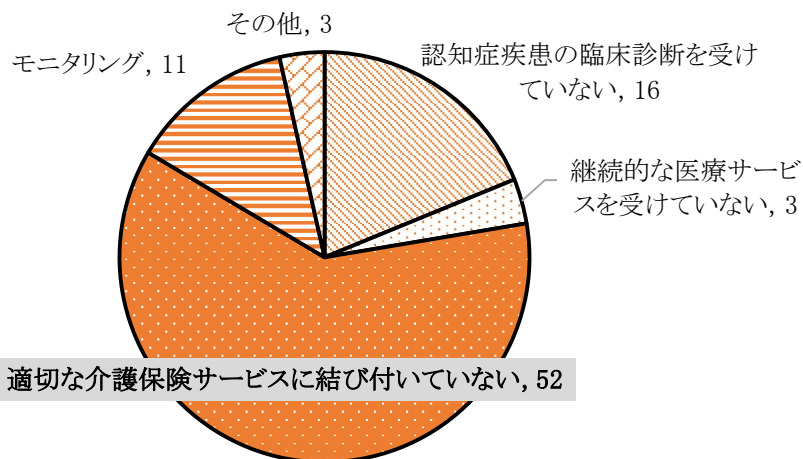
①認知症講演会、②キャラバンメイト連絡会、③パートナー養成講座、④男性介護者のつどい等の開催を計画をしていたが新型コロナウイルス感染症の拡大傾向を踏まえ中止とした。

令和3年度 安来市認知症初期集中支援チーム 対応実績

相談実人数：85人 対応回数：996回 訪問回数：505回

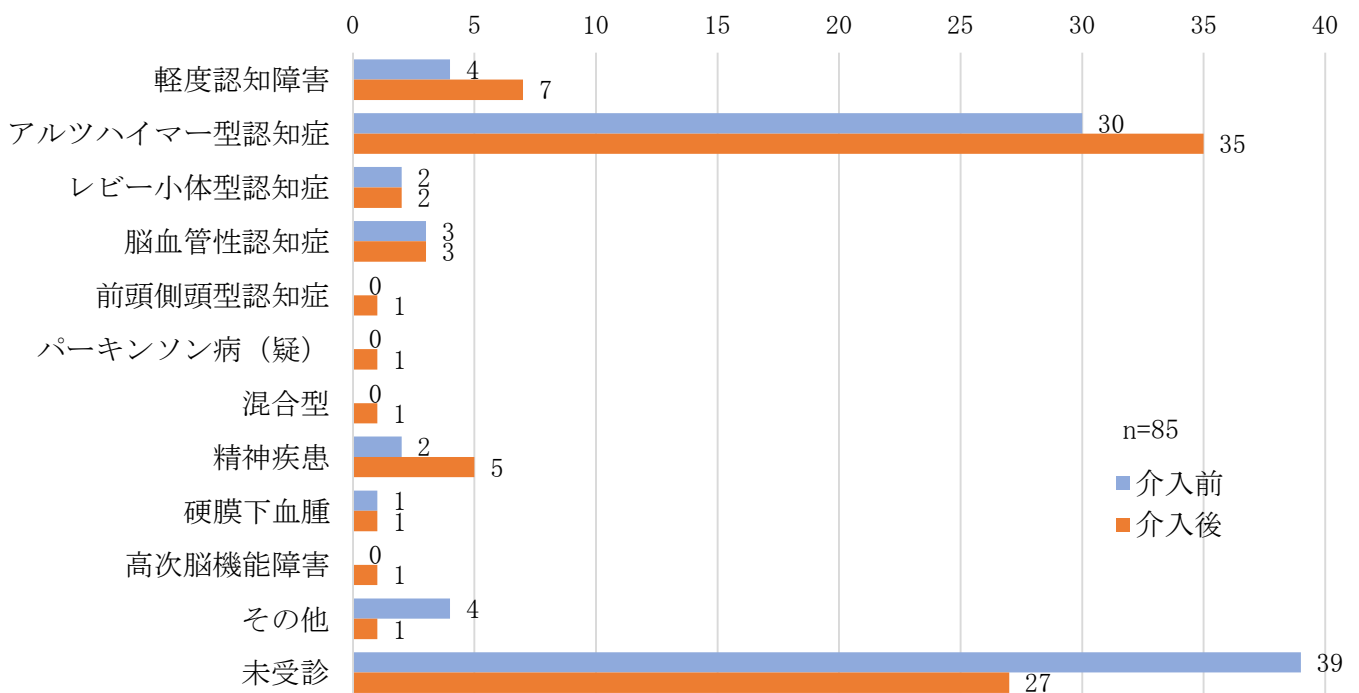


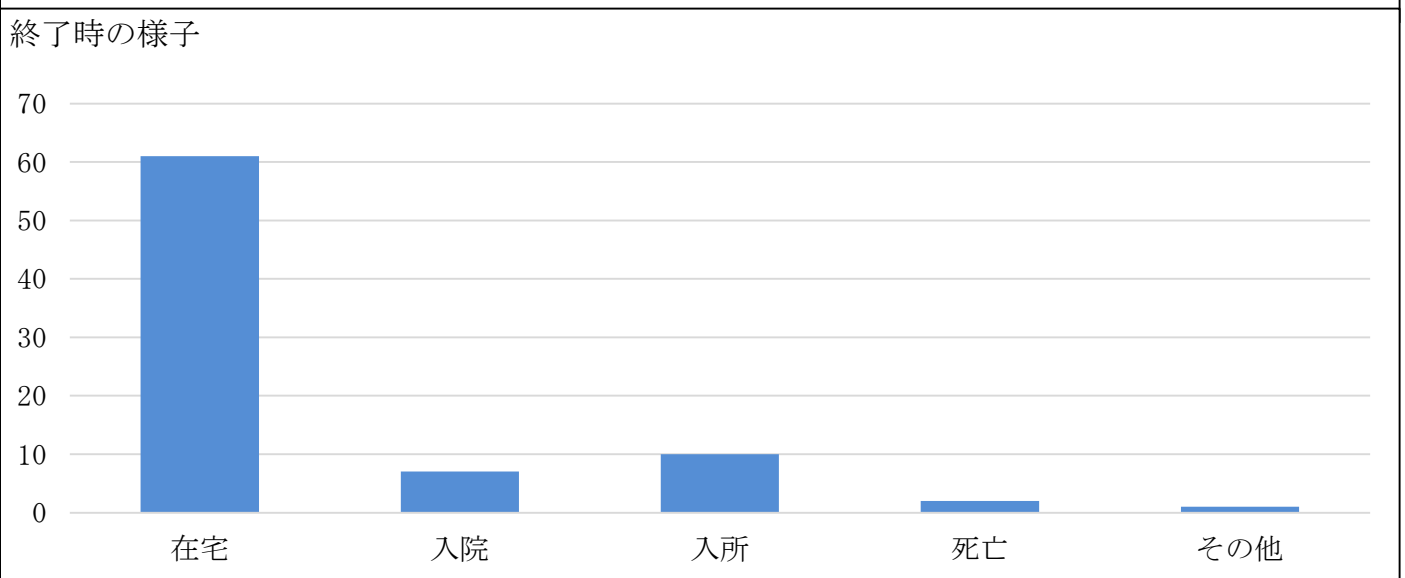
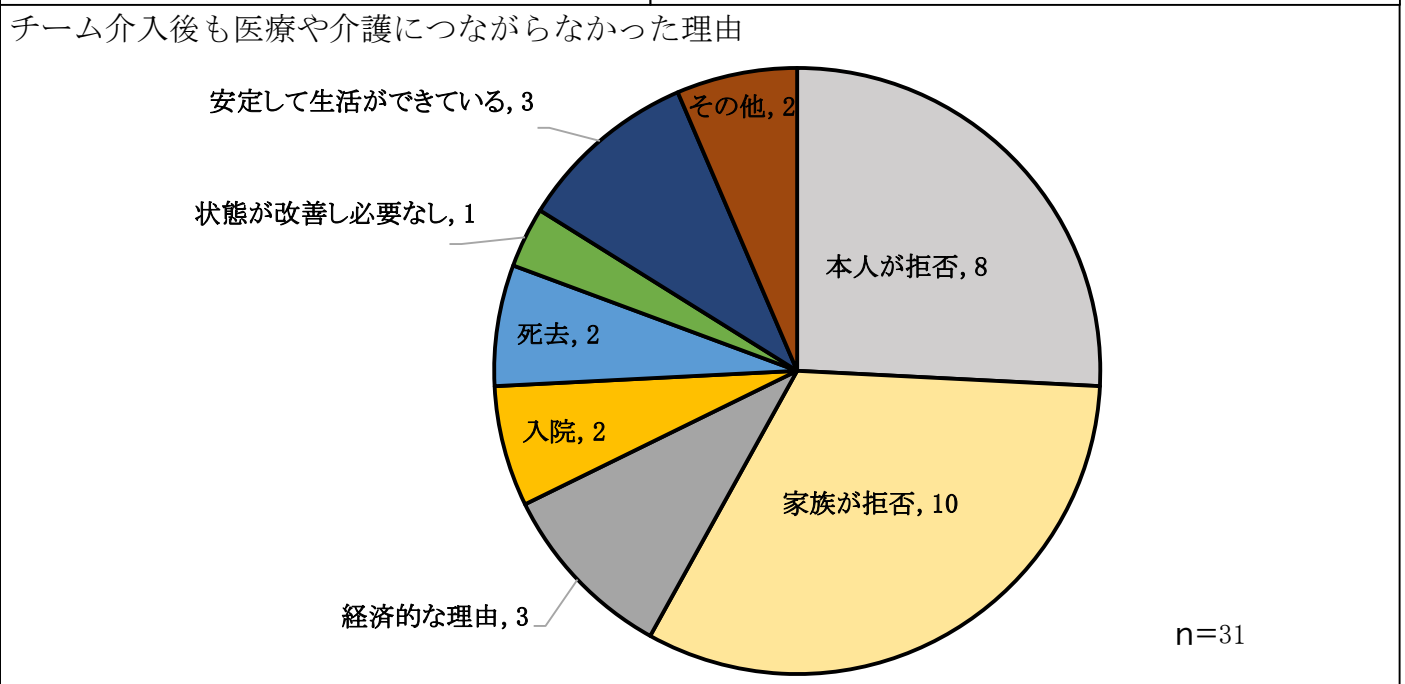
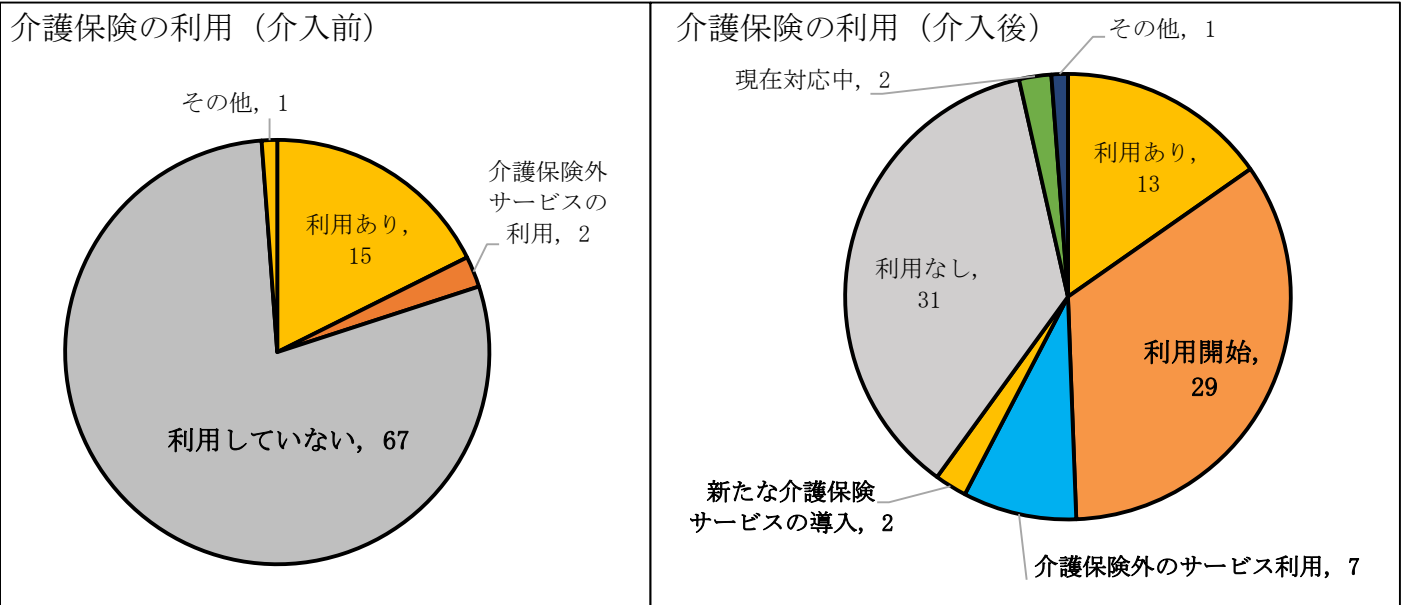
認知症初期集中支援チーム介入の理由



適切な介護保険サービスに結び付いていないケースが全体の75%を占める

介入前後の確定診断





医療・介護につながらなかったケースは、本人・家族の拒否によるものが全体の58%を占める。経済的な状況で拒否するケースもあり、市福祉課や社会福祉協議会との連携を必要とした。

介護保険の利用にはつながらなかったが「認知症カフェ」など本人同士がつながる集まりには定期的に参加されるようになったケースもあり、今後、介護保険対象外の本人同士が集まれる「場」づくりの検討が必要である。

## Ⅷ. 組織運営

### 1. 情報発信の強化

#### (1) ホームページの運営・更新

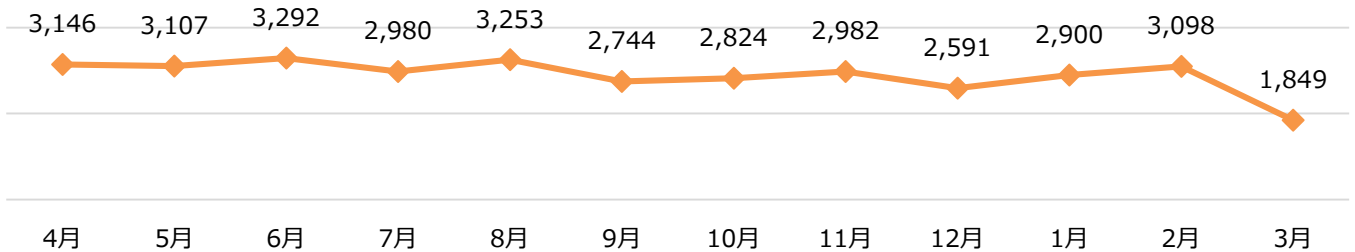
##### ①掲載項目・記事

- (ア) 事業計画・事業報告・包括評価
- (イ) 認知症施策総合推進事業、本人交流会日程、認知症講演会案内
- (ウ) 地域ケア会議、校区別地域ケア会議、自立支援型ケアマネジメント会議
- (エ) 介護予防（こけないからだ体操の内容、紹介映像、交流会の様子）
- (オ) 権利擁護（権利擁護セミナーの要項、消費被害・虐待の注意喚起記事）
- (カ) その他（包括ニュースレターのバックナンバー掲載、ケアマネから包括への連絡シート、地域見守り（気づき）シートのPDFファイル、入力フォーム、各種調査報告書の掲載）

##### ②アクセス・閲覧数

R1年7月の開設以降、延べ123,177件のアクセスを記録している。

#### R3年度ホームページアクセス件数の推移



#### (2) 包括ニュースレターの発行

包括事業の告知・内容を掲載し年3回を目安に発行。市内の事業所、関係機関、市内民生児童委員、各交流センターなどに発送するとともに、ホームページにバックナンバーを掲載している。

##### ①第8号 6月発行

- (ア) 令和2年度「総合相談業務」から見えてくる課題
- (イ) 令和3年度「こけないからだ体操」の開始について
- (ウ) 安来市介護予防拠点事業（短期集中予防サービス）のお知らせ

##### ②第9号 11月発行

- (ア) 「通所型サービスC」の実施状況報告、効果測定の結果について
- (イ) 令和3年度「校区別地域ケア会議」開催報告
- (ウ) 令和3年度認知症地域支援事業の取り組み状況報告

##### ③第10号 2月発行

- (ア) 令和3年度「こけないからだ体操」効果測定の結果
- (イ) 令和3年度「校区別地域ケア会議」の意見集約について
- (ウ) 令和3年度「総合相談支援事業」からみえてくる課題



※参考 包括レター 第9号

### 新2. 業務継続計画（BCP）暫定版の策定

2021年介護報酬改定において、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で、全ての介護事業所に業務継続に向けた取組みが義務づけられ、本年度は感染症対策を中心とした「安来市地域包括支援センター業務継続計画」（暫定版）を策定した。

### 3. 行事等

#### (1) 各種会議の開催・出席状況 (初回開催日順)

会 議 名 等	開 催 日	備 考
自動車運転支援・連携についての意見交換会	5/7	
令和3年度 安来市指定事業所説明会(介護報酬改定及び保険者からの連絡事項)	5/20	
安来市通所型サービスC 合同協議	6/4	市との協議
ものトレ実施地区と非実施地区の比較検証について	6/9	鳥取大学との協議
令和3年度 安来市主任介護支援専門員連絡会	6/15	
令和3年度 総合相談支援事業 業務委託事業所連絡会	6/18	
令和3年度 安来市高齢者虐待防止対策協議会 実務者会議	6/24	
令和3年度 安来市介護保険運営協議会	7/8(第1回)	
松江圏域重症神経難病患者の介護支援専門員連絡会	7/9	
令和3年度 安来市高齢者虐待防止対策協議会 代表者会	8/10	
認知症研修会 サポート医フォローアップ研修会	8/22	
令和3年度 校区別地域ケア会議(一中校区)	9/16	
安来市高齢者等見守りネットワーク事業の運営開始に係る打合せ	9/27	
令和3年度 校区別地域ケア会議(二・三中校区)	10/15	
令和3年度 支援者のための成年後見制度活用講座	10/20	
令和3年度 島根県地域包括支援センター連絡会 三役会	10/28	
令和3年度 校区別地域ケア会議(広瀬中校区)	11/8	
個別地域ケア会議(自立支援型ケアマネジメント会議)公開講演会	11/12	
山陰ど真ん中合同本人交流会	11/29	
令和3年度 校区別地域ケア会議(伯太中校区)	12/8	
令和3年度地域包括ケアシステム関係機関連絡会議	2/9	
令和3年度島根県地域包括支援センター連絡会 職員研修会	3/24	※実践報告

(2) グループホーム等運営推進会議出席状況

会 議 名 等	対面会議の開催日	備 考
きららの家・ことぶきの家・昌寿の家運営推進会議		※開催日の記載がない事業所については、書面会議。
かがやきの園運営推進会議	5/19	
やすらぎの園運営推進会議	5/19	
絆・やすぎの郷運営推進会議		
荒島ふれあいの郷運営推進会議		
かも運営推進協議会	11/10	
ソレイユあらしま運営推進会議	5/14	
なごみ運営推進会議		
久遠の響運営推進会議		
ひだまりの里・サテライトふべ運営推進会議	7/15、11/18	
ふるさと母里運営推進会議	3/23	
伯寿の郷運営推進会議	5/18、9/21、11/16、3/15	
和み館運営推進会議	6/1	
比田デイサービス運営推進会議		
JA やすぎデイサービスセンターふれあい運営推進会議		
レッツ倶楽部安来中央運営推進会議		
しらすぎ苑第一デイサービス運営推進会議	8/26	

(3) 職員の研修参加状況 (初回開催日順)

研 修 名	会 場	日 時
令和3年度主任介護支援専門員更新研修	くにびきメッセ	①6/22～24 ②7/4～6 ③7/29～30
令和3年度認知症地域支援推進員初任者研修	オンライン研修	①7/13～14 ②11/16～17
令和3年度主任介護支援専門員研修	出雲市「朱雀会館」	①8/29～30 ②9/25～26 ③10/12～14 ④10/27～29 ⑤11/18～19
令和3年度介護保険認定調査員研修(現任研修)	安来市役所安来庁舎	9/17
令和3年度介護支援専門員研修兼更新研修	①eラーニング ②、③集合研修	①8月～9月 ②9/29～30 ③10/24～25
令和3年度重層的支援体制整備事業担当職員研修	オンライン研修	10/21
医療介護合同勉強会(新型コロナウイルス感染症の施設内におけるクラスター予防と発生時の対応について)	安来市総合文化ホール「アルテピア」小ホール	11/17
令和3年度安来市相談支援関係職員研修会	安来市健康福祉センター	12/20
令和3年度安来市地域包括支援センター職員研修会	広瀬社会福祉センター	12/24
令和3年度認知症地域支援推進員研修(現任研修)	オンライン研修	1/20～1/21
すいしんいんセッション	オンライン研修	2/18
認知症になってからも安心して外歩きを楽しめるまちづくり全国フォーラム2021	オンライン研修	2/25
「知っておきたい進行性核上性麻痺の基本知識」	オンライン研修	3/2
「大切な方への絆ノート(安来市版エンディングノート)」セミナー	安来市健康福祉センター	3/7
認知症の人の希望を叶えるヘルプカード報告会	オンライン研修	3/9



(4) ミニサロン、研修会への職員派遣状況 (開催日順)

研 修 名	会 場	日 時	テ ー マ ・ 内 容
荒島地区婦人会	荒島交流センター	4/4	フレイル予防・介護予防
大塚寿会	大塚交流センター	4/9	フレイル予防・介護予防
宮内町こけないからだ体操を進める会	宮内町公会堂	4/21	フレイル予防・介護予防
いきいき健康スポーツの会	下石原公会堂	4/28	フレイル予防・介護予防
ミニデイサービス「とかみサロン」	一風亭	5/10	認知症予防教室
須山ミニサロン	須山集会所	7/7	一生涯の健康
こんにちはサロン	つどいの里ひろせ	7/14	フレイル予防・介護予防
森口ミニサロン	森口公会堂	7/28	熱中症対策・フレイル予防
栄町2ミニサロン	広瀬社会福祉センター	8/17	フレイル予防・介護予防
東加茂2ミニサロン	宮内町東加茂2集会所	8/18	フレイル予防・介護予防
JAしまねやすぎ女性部広瀬支部	JAしまね広瀬支店	9/3	フレイル予防・介護予防
能義地区いなほ会	能義交流センター	9/15	フレイル予防・介護予防
ほんわかサロン	八幡町公会堂	10/13	フレイル予防・介護予防
JAしまねやすぎ女性部伯太支部	JAしまね伯太支店	10/27	フレイル予防・介護予防
大塚寿会	大塚交流センター	11/26	こけないからだ体操の継続に向けて
大谷紙屋谷ミニサロン	大谷紙屋谷公会堂	12/13	フレイル予防・介護予防
令和3年度島根県介護支援専門員資質向上委員会専門部会	いきいきプラザ島根	12/17	研修講師
菅原うさぎサロン	菅原交流センター	12/20	フレイル予防・介護予防
島田地区民生児童委員協議会定例会	島田交流センター	1/9	8050問題について
かえるの会	比田交流センター	1/18	こけないからだ体操の継続に向けて
令和3年度介護支援専門員実務研修講師(オリエンテーション)	くにびきメッセ	1/26	実習オリエンテーション
令和3年度介護支援専門員実務研修講師(振り返り)	くにびきメッセ	3/1	実習振り返り
さわやかサロン1班	広瀬社会福祉センター	3/24	フレイル予防・介護予防

(5) 安来市特設会場における新型コロナウイルスワクチン接種後経過観察業務 職員派遣

名 称	日付・期間	派遣職員(延べ人数)
安来市特設会場における新型コロナウイルスワクチン接種後経過観察業務に係る事前説明会	5/24	2名
接種後経過観察業務 (安来市防災研修棟、広瀬中央交流センター、伯太中央交流センターの3ヶ所)	6/12～11/27 のうち25日間	センター所属の保健師・看護師 派遣延べ人数 25名

## IX. 各種実態調査

### 1. 住民運営通いの場「こけないからだ体操」のフレイル予防としての有効性について

#### (1) 実施理由

令和2年6月、当センターでは「新型コロナウイルス感染拡大に伴う後期高齢者の生活や健康に与える影響調査」を実施した。この調査から約1年が経過し、安来市内での感染者の確認や島根県内におけるクラスターの発生、ワクチン接種の開始等、市民を取り巻く状況が変化していった。そこで当センターでは、市内高齢者の生活や健康にどのような影響があったか明らかにするため追跡調査を行った。

追跡調査の結果、安来市内において「フレイル状態」にある方が増加したことが明らかになった。この結果を受け、これからの安来市のフレイル予防・介護予防のあり方について資するため、「こけないからだ体操」参加群と非参加群間で約1年間のフレイル状態の推移についても加えて調査を行った。

#### (2) 調査対象者

- ①令和2年6月「訪問調査」にご協力いただいた安来市在住後期高齢者91名。
- ②令和2年度以前から「こけないからだ体操」を継続して実施している高齢者51名。

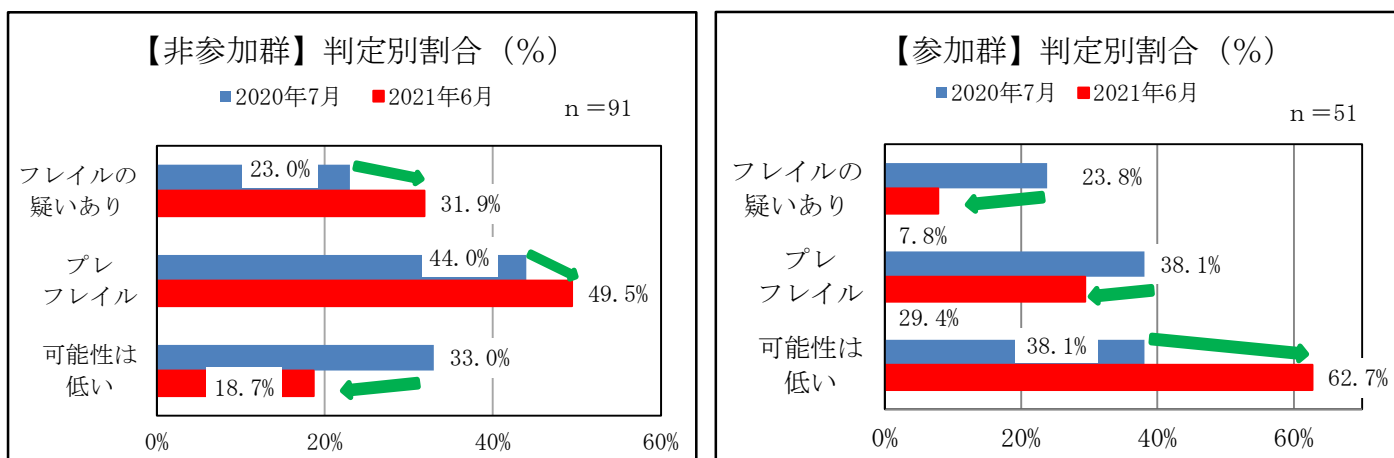
#### (3) 調査方法

- ①電話による「安否確認と訪問調査の意向確認」の実施。
- ②意向確認の結果に則り、訪問もしくは郵送にて「生活・健康に関する聞き取り調査」と「基本チェックリスト」を実施。
- ③「こけないからだ体操」参加者に対してはフォローアップも兼ね、「基本チェックリスト」を実施。

#### (4) 分析方法

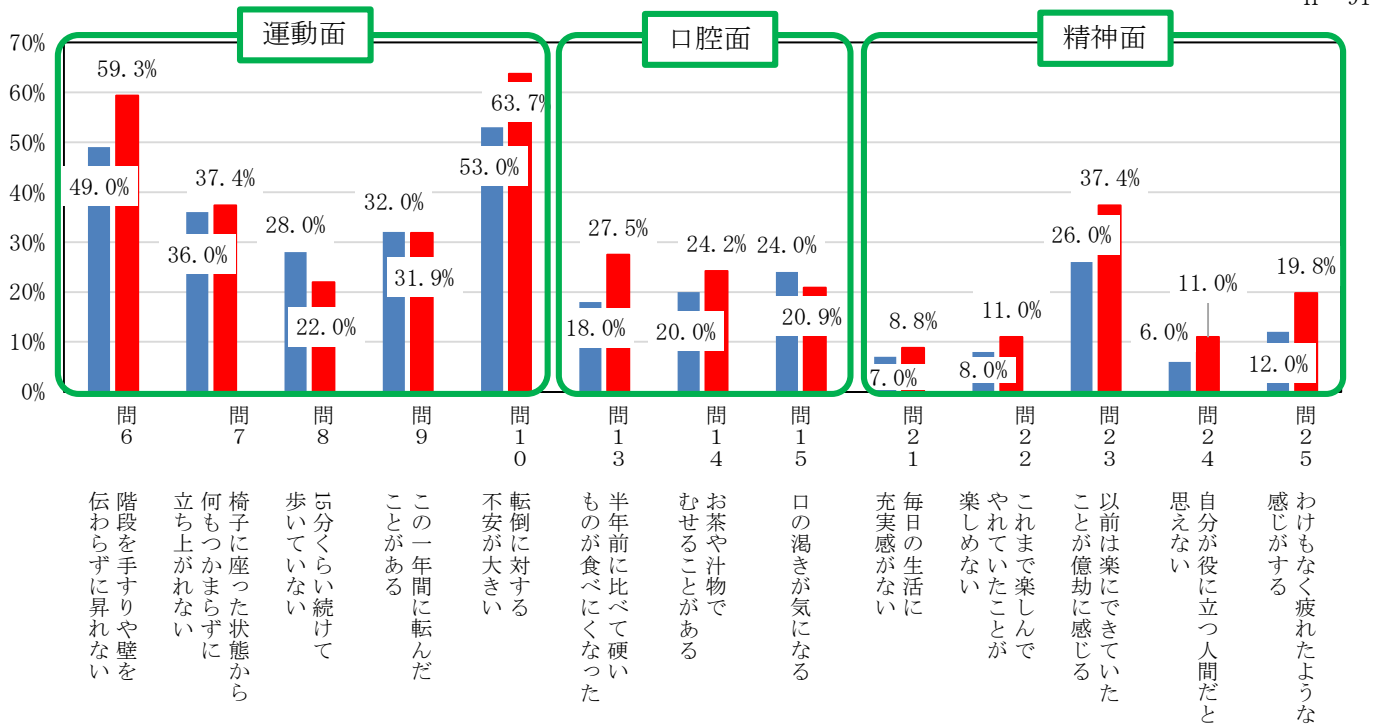
「基本チェックリスト」はフレイル早期発見システム「ASTER II」を用い、集計・分析を行った。合計点数が4点以上の場合は「プレフレイル」、8点以上の場合は「フレイルの疑いあり」と判定される。

#### (5) 調査結果



「こけないからだ体操」非参加群においては、1年間で「フレイルの疑いあり」「プレフレイル」の方が共に増加していた。しかし、参加群においては共に減少しているという結果が明らかになった。

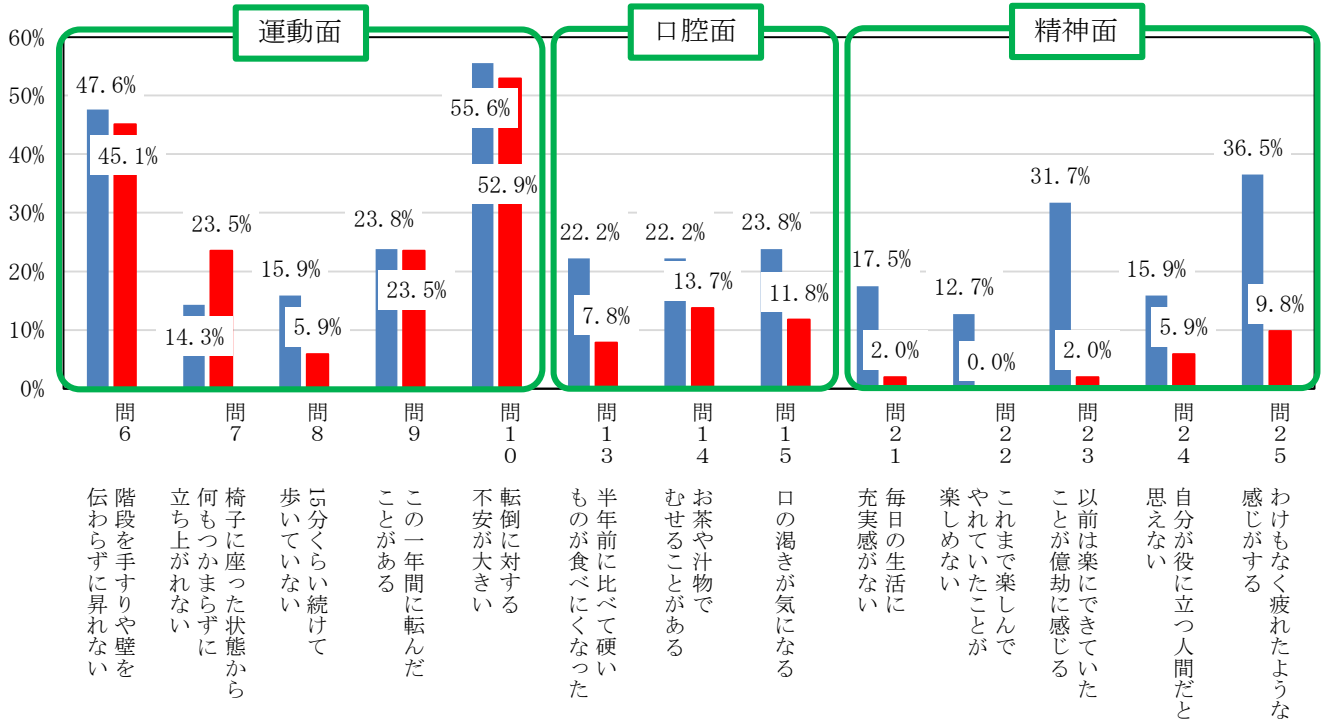
【非参加群】 設問別回答割合 ※一部抜粋 2020年7月 2021年6月



【参加群】 設問別回答割合 ※一部抜粋

2020年7月 2021年6月

n = 51



「基本チェックリスト」の設問別回答割合の増減傾向について「こけないからだ体操」参加群と非参加群間で比較したところ、非参加群では、ほぼ全ての設問において増加傾向にあることが明らかになった。

身体機能に関する問6～10では、非参加群では増加傾向にあったが参加群では改善傾向にあることが分かる。また、フレイルの進行に大きく影響を及ぼすといわれている、口腔機能に関する問13～15や、うつ傾向に関する問21～25については参加群において大きな改善傾向がみられた。

## 2. 「成年後見制度」利用に関するニーズアンケート調査報告の概要

### (1) 実施理由

成年後見制度は、認知症、障がいがあることにより財産の管理や日常生活等に支障がある人たちを支える重要な手段であるにもかかわらず十分に利用されていない現状がある。安来市でも権利擁護に関する相談は増加しており、今後高齢者だけでなくさまざまなニーズに対応できる体制整備が課題となっている。

今後ニーズに対応できる成年後見実施の体制整備を検討することを目的に、安来市内における成年後見制度の潜在的なニーズを明らかにするためアンケート調査を行った。

### (2) 調査対象者

#### ①安来市内相談支援機関(19か所)

(行政、社会福祉協議会、居宅介護支援事業所、障がい者相談支援事業所、地域包括支援センター)

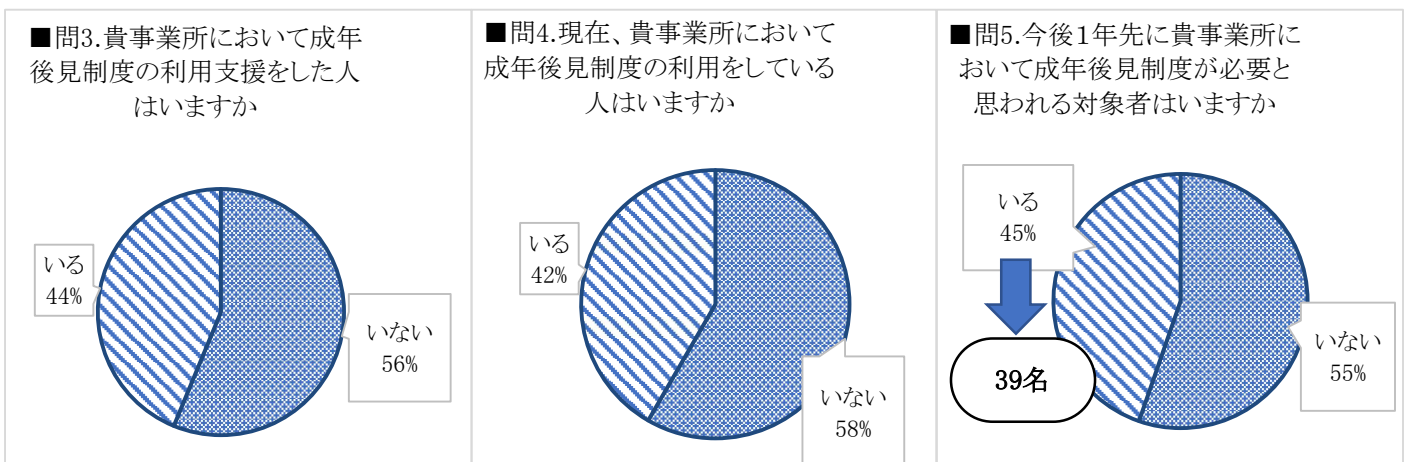
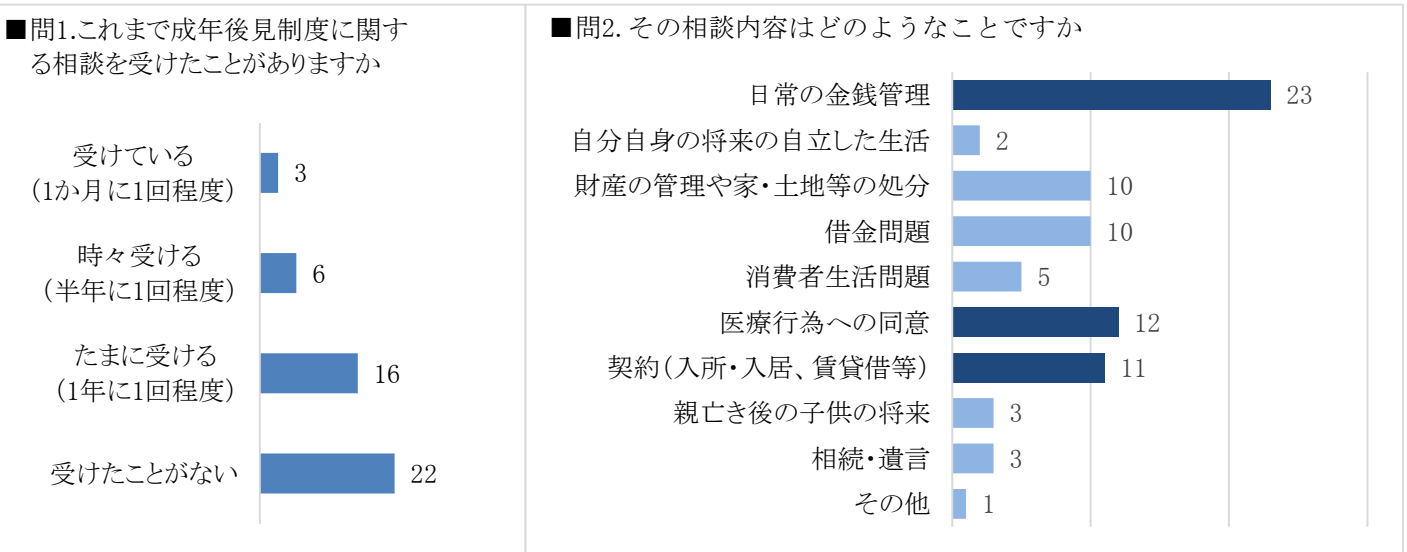
#### ②安来市内入所施設(29か所)

(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院、グループホーム、サービス付き高齢者住宅、軽費老人ホーム、養護老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、障がいグループホーム、宿泊型自立訓練施設)

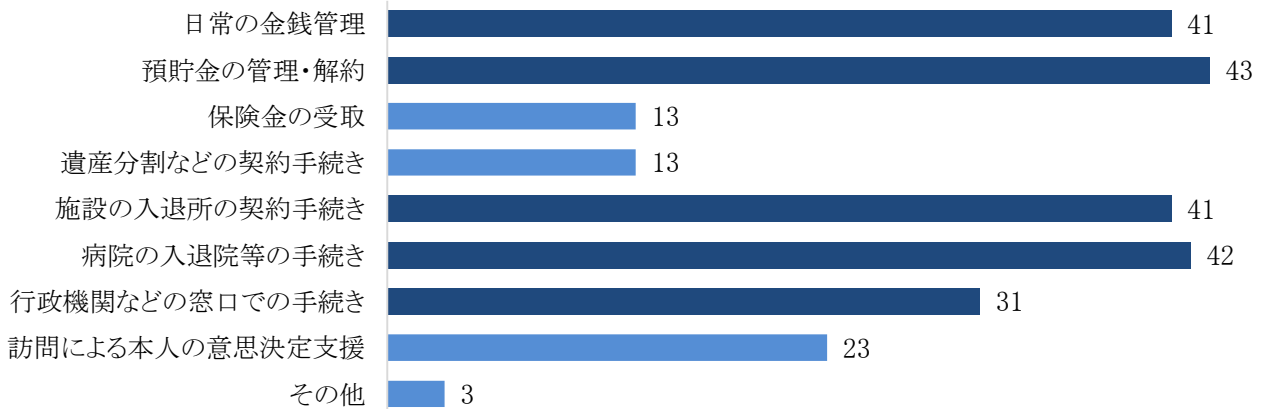
### (3) 調査方法

対象者に対して、調査票を配布し実施。

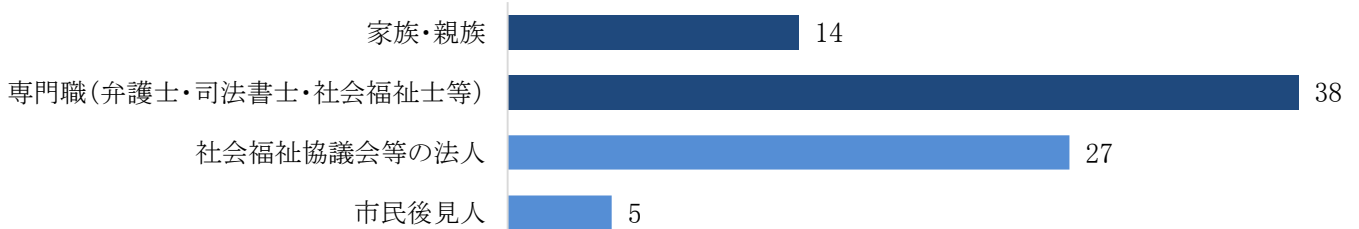
### (4) 調査結果 (回収率 100%)



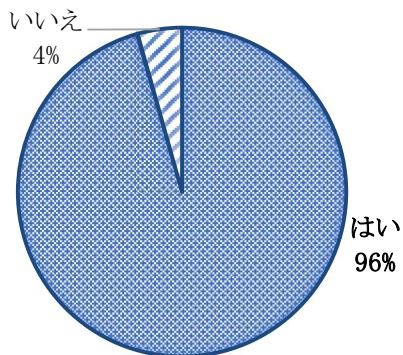
■問6.後見人に望むこと(複数回答)



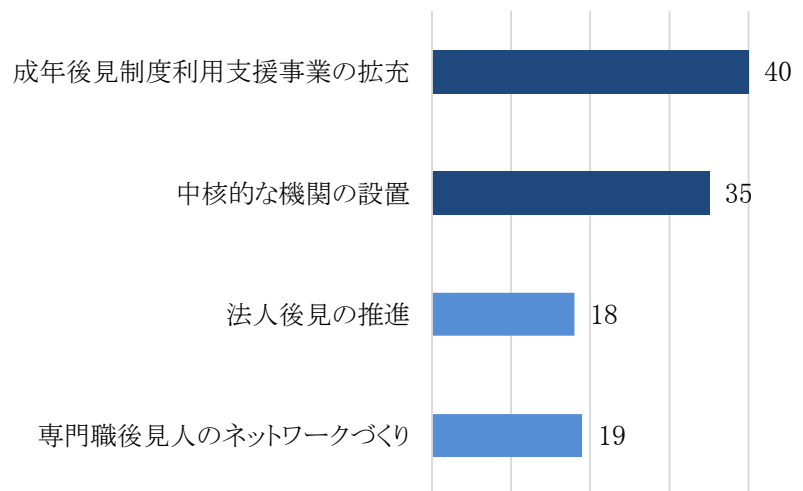
■問7. 成年後見人を利用する場合、  
後見人として誰になってもらいたいと思いますか



■問8. 安来市で市民後見人の  
養成講座や勉強会が必要だと  
思いますか



■問9.成年後見制度の利用促進を進めるうえで必要な施策



相談内容は相談支援事業所、入所施設ともに日常の金銭管理が一番多かった。1年後に制度が必要と思われる対象者が39名(相談支援事業所24名、入所施設15名)いると回答している。

成年後見人に望むこととして金銭管理、預貯金の管理、病院の入退院の手続き、施設の入退所の手続き、障がい・介護サービスの手続きの順で多かった。問題に直面する前に相談ができる窓口の明確化、制度についての周知を望む声が多かった。